

新年のご挨拶と農業への展望

日高農業改良普及センター 所長 須田 耕



新年あけましておめでとうございます。
組合員の皆様におかれましては、希望に満ちた新春を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。また、平素より普及センターの取り組みに深いご理解とご協力を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。

■気象と向き合い、成果をつかんだ一年

昨年は、春の長雨、夏の異常高温、秋の強風や降雨など、まさに「気象に試された一年」でした。それでも皆様は、ほ場の状態が思いどおりにならない中でも作業を進め、厳しい暑さに耐えた作物を細やかな管理で支え、技術と経験

で数々の壁を乗り越えてくださいました。

水稻では、高温で生育が前倒しになり、降雨や強風による倒伏も見られましたが、作況指数101という結果をつかみ取りました。高温にさらされながらも品質が保たれたのは、毎日の水管理、ほ場の観察、迅速な判断・・・そのすべてが積み重なった成果です。

ミニトマトでも、曇天による徒長や夏の花飛びなど、厳しさが続きましたが、皆様の粘り強い対応によって出荷量は例年並みからやや多い水準に達しました。

畜産や牧草生産でも、高温やコスト高の中で安定的な生産を続けていただいたことは、地域農業の底力を改めて実感するものでした。

こうして振り返ると、昨年の新ひだか町農業は「厳しい中でもしっかりと成果を残した一年」です。この地域には、自然の変化に正面から向き合い、諦めずに挑み続ける農家の力があります。その姿に、普及センターとして心から敬意を表したいと思います。

■見えてきた課題
厳しい一年は課題を浮き彫りにしました。

ミニトマトでは生育後半の斑点病や土壌病害が収量と品質を押し下げ、抑制作型では定植時の高温による樹勢低下が避けられませんでした。

畜産でも、高温が採食や受胎に影響し分娩間隔が長期化するなど、経営の不安定要因となっています。そして何より、気象災害の頻発

は地域農業の大きな脅威となっています。昨年は強風でビニールハウスが破損し、降雨では場に水が入り込む被害が発生しました。「温暖化時代の農業」を生き抜くためには、災害に耐えうるほ場づくり、透排水性の改善、そして万が一に備える共済への加入が、これまでに以上に大きな意味を持ちます。

また、新ひだか町では新規参入者が増え、地域農業の新しい担い手として希望を与えてくれていますが、資材費の高騰はその歩みを脅かしつつあり、関係機関が力を合わせて支えなければ、地域全体の活力にも影響しかねません。

■普及センターが果たす役割
普及センターは、今年も皆様とともに歩む覚悟です。

水稻では、JAしずない稲作振

興会との連携により、特別栽培によるブランド米の維持拡大を支援していきます。

ミニトマトでは、暑熱に負けない栽培体系の再構築と、より確実な病害虫防除への確立を、JAしずないミニトマト部会とともに取り組んでいきます。

畜産では、静内和牛改良組合と力を合わせ、飼養管理の改善を図るとともに、自給飼料の安定確保に取り組みます。

また、新規参入者一人ひとりがこの地域で腰を据えて営農を続けられるよう、関係機関と協力しながら経営安定のための支援を一層強化してまいります。

■結びに
私たちが取り組む全ては、新ひだか町の農業を未来につなぐためのものであります。どんな気象条件でもしなやかに対応できる「強い農業」づくりに向けて、今年も現場と共に歩み続けます。

■結びに
本年が皆様にとって、健康で実り多く、希望あふれる一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。ともに新ひだか町農業の未来を創っていただけることを、心から楽しみにしております。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。